

# 自らの五感で確認 圧縮梱包TMR飼料開封作業を体感



岩竹重城組合長は、新TMR飼料の製造に向けた取り組みに対する意見を聞くため、第2回飼料利用推進委員会を開催し、委員11名(3名欠席)が出席する中、伊達薫委員長の議事進行のもとで、これら対処に向けた率直な意見提案を聞いた。これらの意見提案は生産委員会や理事会での参考とし検討を深めることとした。

## ■出席した飼料利用推進委員の氏名

伊達薫委員長、温泉川寛明委員、川角晴俊委員、和田慎吾委員、三浦正道委員、中田雄久委員、田辺輝之委員、田辺光次委員、角康晴委員、吉川春三委員、寺尾太志委員



日々徒然

かがやき

▼新たな万能細胞「STAP(スナップ)細胞」を作製した「リケジョ」、小保方(おぼかた)晴子さん。三十歳の理系女子として、これまでの生物学の常識を覆すまでの発見と、一般的なイメージとのギャップで一躍アイドル並みの注目を浴びた。

▼このSTAP細胞は筋肉や神経等の様々な細胞に変化出来ることが特徴で、弱酸性の液体に浸すなど細胞を外から刺激することで簡単に作れることから、今後の再生医療等へのヒトへの応用に期待が高まっている。

▼特に報道では、おぼあちゃんに貰った「かつぼう着姿の研究者のイメージとのギャップ、そして、研究過程での苦節が大きく報じられた。

▼自らの実験データを信じ、当初は世界的な英科学誌から「歴史を愚弄(ぐろう)」、「研究仲間が見つかからない」、「だれも信じてくれない」との挫折を味わい、「泣き明かした夜は数えきれない。今日だけは頑張ろう」と自らを励まし、信じて研究に情熱を注いだという。

▼この研究結果は、偶然からのひらめきがきっかけだったことも驚きである。別の細胞に変化できる幹細胞を体の細胞の中から

より分ける実験でのこと。幹細胞の増加はガラス管に通すことで、細胞にとってはストレスになることから、どうにか生き延びようとする力が働くと考え、思いつくストレスを色々試し、弱酸性の液にたどり着いた。

▼化学専攻であったことから、生物学での既成概念にとらわれず、逆境にあっても自分の信念や姿勢を貫き、強い精神力と探究心があつたことも成果につながつたものと思う。

▼ふとしたことで「あれー」と思ったことが発見につながることもある。私たちの日常でも同じようなことがある。考えても答えが出ない時もあるが、「○○かもしれない」に強い信念が加わり「○○できる」と思いを込めれば成しえることもある。

▼小保方さんのような不屈の精神。何かに打ち込める集中力。幹細胞のようにストレスを受けてもくじけ強い精神力。幹細胞は小保方さんそのものではないか。何かに一生懸命にひたむきに打ち込む姿は輝き放つものを感じる。皆さんは何を感じられたでしょうか。

(T.Y)

美湯 仙人

委員会では、広略が導入するラップペールマスタ(圧縮梱包機)で製造する同形状のTMR飼料を使つての開封実演とともに、その圧縮率や品質等を確認し、委員からの意見を聞いた。これには「開封後のほぐれ具合は思った程に硬くない」「給餌車への入れ方をどうするか」「製品重量が五百kgであり、これを一日では給与出来ないため変敗の恐れはないか」といった意見があった。

協議事項では「新しいTMR飼料の説明と推進」について、「他社のコンプレイトからの切り替えに対する希望者への推進はどうか」、「飼料イネ(WCS)を入れることで価格低減を目指しているが輸入乾牧草が安くなった時の対応はどうするか」、「飼料イネ(WCS)の確保に向けた対応はどうか」、「飼料切り替え迄に新TMRが給与実証出来ないのが不安だ」、「新しい形態での給与方法に工夫が必要ではないか」との意見があった。

「飼料イネ(WCS)収穫機の取得」については、「飼料イネ(WCS)の確保状況を把握することが優先」、「いきなり四台をセットで購入するには、リスクが大きい」、「見込みではなく確保数

量が確定した段階で台数を検討し取得してはどうか」、「飼料イネ(WCS)を混合することが大幅な値下げにはなっていないのではないかと」、「飼料イネ(WCS)の買い入れ価格はいくらか」等の意見があった。

報告事項では①TMRセンターの統合整備にかかる進捗状況、②飼料イネ(WCS)確保のための行動、③平成二十五年製造飼料取り扱いにかかる進捗状況、④平成二十五年購買品の取り扱い進捗状況、⑤購買重点品目の取り扱い進捗状況を報告した。



(開封したTMR飼料の前で説明を聞く委員)

## ○今月の表紙

- ▼二〇一四年、「午年」がスタートして既に二ヶ月が終わろうとしている。
- ▼今年は、例年になく何事も駿馬の早足のごとく蹄音を感じる。
- ▼しっかりと、心沈め、足下を見つめ、物事にあたりたい。
- ▼今月の表紙写真は一月十三日の「とんど」にて燃えさかる炎をショットしたものだ。
- ▼熱炎を顔面に浴びて、改めてその力強さを肌身を感じる事ができた。
- ▼遠赤外線の効果が高く、顔が火照った。
- ▼人間の生活では住宅の電化が進み、炎を目のあたりする機会が減っている中で、改めて、火の有り難さを肌で感じた。
- ▼これから、稲作の作付けなど農作業を控えて、野焼きのため火入の光景を目にする機会が増えるが、くれぐれも火事や火傷・怪我などされないようご注意頂きたい。
- ▼野焼きには、シュータ(防火水囊)などを用意し十分な防火対策をして頂きたい。
- ▼改めて、燃えたぎる炎を眺め斬新なアイデアが浮かぶ…。

(撮影 A・N)

